

中学生に対する「総合的な学習の時間」体験を支援

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、1月28日（木）、29日（金）の2日間、横浜市立市場中学校生徒19名教諭1名に対し、陸上自衛隊座間駐屯地及び海上自衛隊横須賀地方総監部において、「総合的な学習の時間」を支援した。

当日は天候にも恵まれ、座間駐屯地の第4施設群では、天幕の設営体験を行った。設営作業は仲間と協力しなければできないため、体験を通じて皆が一丸となって協力しあうことの大切さを学ぶことができた。リーダーの生徒からは「全体を見ながら指示を出すことの大変さを理解できた」「自衛官のチームワークは日々の訓練で培われているのだと実感した」などの声があがった。

海上自衛隊横須賀地方総監部では、潜水医学実験隊及び横須賀潜水艦教育訓練分遣隊を見学し、潜水艦の任務達成や安全を守るために多くの部隊が携わっているなど、海上自衛隊の業務の一端を学んだ。

横浜出張所は、「今後も、積極的に職場体験を支援し、自衛隊の仕事に対する理解を深めていきたい」としている。



6人用天幕展張の様子1



6人用天幕展張の様子2



潜水医学実験隊における座学の様子1



潜水医学実験隊における座学の様子2

地域防災訓練で自衛隊の活動をPR

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、2月7日（日）、横浜市鶴見区の馬場小学校地域防災拠点において実施された防災訓練において、同小学校体育館内に自衛隊広報ブースを設置し、広報活動を行った。

広報ブースでは、昨年9月10日（木）に発災した「関東・東北豪雨に係る災害派遣活動」等のパネルを展示するとともに、横浜出張所募集相談員の稲留末治氏の支援を受け、ブルーインパルスの写真等の展示も行った。

鶴見区内を流れる鶴見川は、古くから洪水や氾濫を繰り返す暴れ川として有名で、過去70年間で17回もの水害を起こしており、昨年の鬼怒川の氾濫は地域住民にとっても関心が高く、「迅速な対応で大勢の人々を助けてくれてありがとう」「鶴見川が氾濫したときは是非お願いします」など感謝と期待の声が多く聞かれた。

また、ブルーインパルスについての展示では、1番機の稲留2空佐の父親でもある稲留募集相談員が、来場した子供たちに大空の魅力やパイロットへの道についての話をを行い、子供たちからは「ブルーインパルスについて、とても身近感を持った」「いつか地元の先輩の雄姿を見に行きたい」との声を聞くことができた。

横浜出張所は、「今後も、地域のイベントを通じて、自衛隊の真摯な活動をPRしていく」としている。



災害派遣のパネルに見入る来場者



質問を受ける広報官